

## Q.1 病院って、閉ざされていて暗いの？

### A. 自然光を取り入れる工夫がしてあります。

バルコニーの位置を下げることで空調用室外機が窓の下に配置され、明るい自然光が差し込みます。自然光は、体内リズムの調整にもつながります。また、緑豊かな景観を楽しむことができる快適な療養環境は、病気の回復を支えます。病棟内を散歩することで開放的な窓からは、まるでパノラマのように稲沢市内を走る電車や馴染みのある風景を見渡せます。

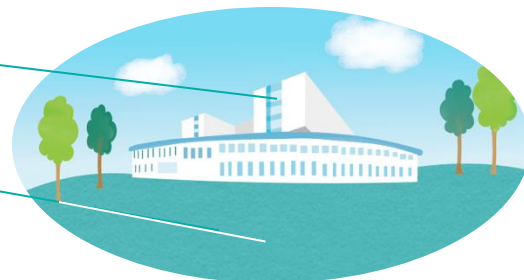


ぼくの住む町の病院の構造を調査してみよう！

## Q.2 病院って、地震がきたら沈んじゃうの？

### A. 免震の工夫がしてあります。

新病院移転のときに住所にも“沼”が付くことなどから立地条件を考慮し、液状化現象が発生しやすいと想定しました。被害を最小限にする目的で、新病院周辺には新たに地下水路や受水槽、浸透性のある地盤改良を取り入れ、1階の床を周辺道路から約1.5m高くするなどしました。災害が起きても医療を継続し、市民の皆様の安全を守るために建物は免震構造になっています。



君の暮らす町の「稲沢市民病院」は、たくさんの人の想いがいっぱい つまった病院なんだよ。

## 新病院移転 /

# 『10周年特集』



## 市民の皆様と歩んだ10年の軌跡

稲沢市民病院は、2024年11月に市民の皆様を支えられ、おかげさまで新病院移転10年を迎えることができました。今月号は、“10年の軌跡”を振り返ります。

## 名古屋文理大学×稲沢市民病院 連携に関する包括協定書締結式

2025年3月13日（木）稲沢市民病院と名古屋文理大学は、医療と学問の分野で互いの分野の強みを活かし地域に貢献する目的で協定を結びました。



### 名古屋文理大学 景山学長

「本学は、食・栄養・情報の3つの柱で教育を行っている。令和7年度より健康情報の大学院も開設する。両者の強みを活かし、高齢化社会などの問題に共に取り組み、互いに発展していきたい。」と述べました。



当院の認知症看護認定看護師、理学療法士、作業療法士、広報担当と名古屋文理大学情報メディア学科の学生と共同制作した『ゆび体操』

### 稲沢市民病院 山口院長

「当院は、患者さんへの質の高い医療の提供、地域医療の充実に努めてきた。今回、名古屋文理大学という教育・研究機関と連携することで、今後は更なる質の高い医療の提供、地域・社会貢献を期待する。」と述べました。

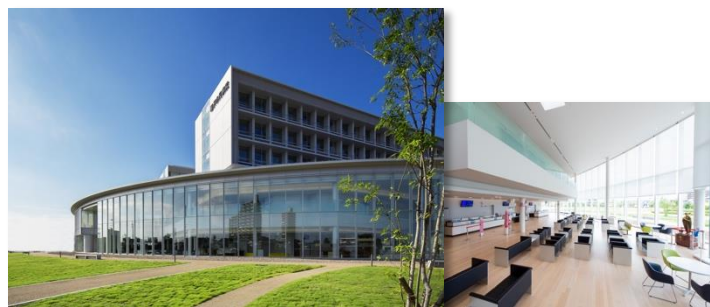




2014年11月の新病院移転から10年間の歴史をご紹介します。

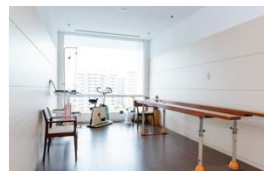
## 2014年11月 新病院移転

国府宮駅近くの旧病院から移転した場所は、稲沢市立中央図書館・名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）・防災機能を備えた文化の丘公園が隣接する緑に囲まれたロケーションです。建物は円柱でガラス張りになっていて、開放的でモダンなつくりになっています。



## 2016年3月 地域包括ケア病棟開設

急性期と自宅や高齢者施設の“架け橋”となる病棟を設置しました。患者さんが、急性期の病状（手術や発症後の早期治療が必要な時期）が落ち着いた後も自宅や施設（居住系介護施設）への復帰に向け、「もう少しリハビリテーションを続けたい」「退院後の生活にすぐ戻るには不安」「自宅退院に向けての準備中」「在宅療養・高齢者施設などに入所中に症状が一時的に悪化し入院治療が必要になった」など、患者さんの退院後の暮らしのために多職種でサポートさせていただきます。



# 市民の皆様と歩んだ10年の軌跡

## 2020年1月

### 新型コロナウイルス感染症流行

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外来診療体制を見直しました。その中で感染リスクの軽減と看護師の負担軽減などを目的として同年12月に導入した『web問診』が「日本医療マネジメント学会」で評価され、優秀演題賞を受賞しました。また、ワクチンの住民接種や感染症に関する情報提供を通じて、地域の方の安全にも尽力しました。その原動力となったのは市民の皆様からの“体温を感じる応援メッセージ”でした。この経験を通じて培った市民の皆様とのチーム力がいまの医療活動の大きな基盤となったと確信しています。

稲沢市民病院のみなさまへ。お一人お一人が私たちのヒーローです。感謝の気持ち、毎日ありがとうございます。ご自身も大切に。

新型コロナウイルス感染症の流行初期「得体の知れないウイルス」「医療者への差別」などのニュースを耳にしていた現場のスタッフは、使命感と恐怖感の葛藤の中にありました。そんな中届いた1通のハガキ「お一人お一人が私たちのヒーローです。」言葉の持つ“大きなチカラ”を感じ取りました。早速、当院HP内に『Tsunagaru』ページを作成・UPしたところ市民の皆様からの応援メッセージが次々と届きました。共に闘ってくださり勇気づけられました。本当にありがとうございました！



## 2024年4月

### 災害拠点病院の認定

稲沢市民病院は令和6年4月1日に愛知県から災害拠点病院の指定を受けました。南海トラフ地震などの大規模災害発生時には多くの罹災者の発生が想定されます。早急な医療の提供および地域の医療機関への支援が必要となるため、公立病院として災害医療の中心的な役割を担っていきます。



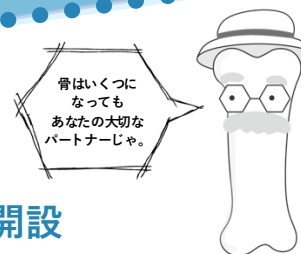
## 2025年

### 3階病棟の再稼働へ

休床していた3階病棟を再稼働し、稼働病床が200床から232床になります。主に消化器疾患の患者さんの治療を行う病棟になります。例えば、消化器疾患の患者さんで手術による外科的治療の必要な方と手術をしない内科的治療の方がいます。3階病棟は消化器内科・外科の混合病棟になるので、同じ病棟で連携した治療を受けることができます。内科・外科の垣根をなくし、両者の視点で一人の患者さんのサポートをさせていただきます。



## 2022年10月 転倒骨折センター開設



超高齢化社会を見据えて、高齢者の骨折を対象に転倒骨折センターを開設しました。複数の診療科が連携して手術などの治療だけでなく、再骨折予防やアフターケアにも重点をおいた治療を行います。また、リハビリテーションの環境を整えるために4人部屋を2人部屋に改装、患者さんが楽しみながらリハビリテーションを行っていただけるように「つなぐステーション」では、定期的にレクリエーションの企画を専門職が中心となって実施しています。センター開設時に患者さんの睡眠状況や活動状況を分析できる体動センサー付きベッドを新たに導入し、質の高い睡眠が取れるように支援しています。



## 2020年2月 訪問看護ステーション「あしたば」開設

「自宅で最期まで過ごしたい」という市民の方の想いを叶えるため、病院併設の訪問看護ステーションを立ち上げました。24時間365日体制で、がん・心不全・認知症の患者さんなど小児から高齢の方まで幅広い世代の方への訪問をさせていただいております。5年の歳月の中で、160人の方をご自宅でお看取りさせていただきました。

